

福祉フォーラム・ジャパン デンマーク高齢者ケア視察研修 主な研修内容（予定）

（研修は原則としてデンマーク語で行われ、通訳がつきます。一部通訳なしの研修もあります）

■「世界でもっとも国民幸福度の高い国」での高齢者施策とは

18歳になると独立して親元から離れるデンマークの社会。その後は夫婦だけの生活となるため、お年寄りだけの世帯がごく一般的にあります。

そのため高齢者世帯の自立を支える施策が社会の様々な面に取り入れられています。「高齢者の住まい」「介護の担い手」「認知症のケア」など、高齢社会の抱える課題に、約50年前から取り組んでいる先人から学びます。

■認知症ケアに積極的な対応を進める施策

2015年に政府は「デンマークは認知症にフレンドリーな社会をめざす」との方針を定め、それに基づいて各市において、様々な取り組みを強化推進しています。ネストヴェズ市もその方針に基づき、積極的に認知症の方の早期発見、若年性認知症の方への支援など、多角的な活動を行っています。今行っていること、今後行うよう企画していることを学びます。デンマークはトライ&エラーの社会、トライしてよい結果が出れば推進、うまくいかなかったら報告転換して別の取り組みをします。そうした柔軟性と企画力も学びます。

■ホームヘルパーに同行。在宅サービスの実態に触れる

ヘルパー、看護師、PTなど、様々な職種の方の在宅訪問に1対1で同行します。短時間で決められたことを行い、その間に利用者と会話を交わし、利用者の要望などを聞いて、それをフィードバックしていく場面を実際に見ることができます。

利用者の実際に生活している姿を知り、個々人の希望にあわせた朝食を準備することなど、そこには画一的なサービスとは異なる「個の生活を重要と考える」デンマークの高齢者3原則が活かされています。それを可能にしているのが携帯型コンピューター。訪問する利用者の情報や行うべきこと、注意すべきことがヘルパーに提供されます。

■特養ホームを廃止しても継続的ケアをめざす生活支援プログラム

生活環境の向上をめざし、プライエム（特養）をプライエボーリ（介護を提供する個人宅の集合体）に全面的に転換するよう国は指針を出しました。自宅または高齢者住宅での継続的で効率的なケアを実現しています。

ネストヴェズ市は、市としての設立は古く1135年。5つの市町村の統合により今の人口となり、都市部から郊外部まで生活環境が異なる地域にも市民には同様のレベルのサービスを提供しています。

説明者は現場で業務に日々携わっている部門責任者です。講義を聴くだけでなく、質疑応答も活発に行なわれます。

○主な見学先○

- 市の施策・財務
- プライエボーリ見学
- 配食システム
- サービス利用者同行訪問
- 携帯型コンピューターによるケアシステム
- ケアスタッフ養成
- 認知症の地域ケア
- デンマークにおける高齢者の急性期医療とホームドクターの連携



▲ヘルパーに同行して、実際の住宅での介護の様子を見学



▲1日30軒近くの訪問を可能にしている携帯端末

デンマーク福祉の最近のトピックス

昨今のデンマークの行政改革と医療・福祉対策

- デンマークは、大規模な行政組織の再編成を行い、2007年1月に従来の14のアムト（県）と275のコムーネ（Kommune、市）を廃止して、5つのレジオン（region）と、98のコムーネに統合した。これは、財政的に安定した自治体が求められ、自治体職員は専門的な役割と活動の遂行を求められているためであった。
- 病院から退院後高齢者施設に移る必要がある人には「待機期間2ヶ月以内」（退院後2ヶ月以内に住居を用意しなければならない）の新ルールができ、急性期医療の入院短縮で医療費の抑制策がとられている。
- 高齢者一人一人がより自立して生活できるよう、生活すべてを手伝うのではなくできることは自分で行うことで生活力を維持する Levebo というコンセプトの住居を提供している。
- 認知症の高齢者は増加し、現在の78,000人から2030年には130,000人となると予測されている。認知症の高齢者のための住居の追加建設、認知症診断の仕組み等に新たな取り組みが求められている。

特養を全廃したデンマークのその後

- ネストヴェズ市では、プライエムと呼ばれる日本の特別養護老人ホームに相当する高齢者施設は、2009年6月に全廃、すべてがプライエボーリといわれる新しいタイプのケア付住宅に転換された。廃止を決めてから20年を要した。この転換は、元福祉省大臣のアナーセン教授を中心とする改革諮問委員会が1982年に答申を受けて行われ、
 - ①継続性の原則（在宅生活の条件整備）
 - ②自己決定の原則
 - ③自己資源の活用・開発の原則（残存能力の活用）を骨子とし、24時間在宅ケアへの道筋を示した。
- 1997年にできた、社会サービス法により、施設という概念を廃止、自宅および自宅に近い環境で暮らすための各種サービスを受ける権利が確立していった。

高齢者のケアスタッフの制度は？ 福祉用具等は？

- デンマークのケアスタッフは、「社会保健ヘルパー（SSH）」と「社会保健アシスタント（SSA）」の2種類あり、前者は約14ヶ月、後者はさらに約20ヶ月の教育・訓練が義務付けられている。ケアスタッフは教育・訓練中の給与は保証される。
- 病院から自宅に戻る場合は、住宅改修、補助器具（福祉用具）、ホームヘルパー派遣などで支え、その体制はしっかりできている。
- コムーネには補助器具センターがあり、必要な器具はほとんどの品目について、必要な期間中、速やかに無償で貸し出され、自立的な生活を確保するための重要な手段・方法とされている。

～ ネストヴェズ市から歓迎のメッセージ ～

“ロポ”プログラムは、デンマーク福祉モデルの視察研修プログラムです。対象分野は、高齢者サービス、地方自治体行政、環境、児童、労働市場、教育そして自治体サービス提供における ICT の活用です。ネストヴェズ市の“ロポ”プログラムが皆様の役に立ちますことを真に願っております。

特に、日本の皆様においては、NPO 日本アビリティーズ協会と NPO 福祉フォーラム・ジャパンが窓口となり、25年間に600人を超える日本人の方々に研修に参加して頂いています。



日本の各地で、自治体をはじめ民間の福祉機関が、デンマークの福祉を参考に、新たな試みをなされておられることは、私どもにとって大変嬉しいことでもあります。

デンマークの福祉モデルは、高齢者に対するサービスとケア、青少年対策、環境および将来の企画、そして知識基盤社会における公共行政などを対象としています。LOPOプログラムはこのような分野で当市がどのように行っているかを皆様にご紹介いたします。“ロポ”プログラムは、1991年に設立されました。以来、多数の専門家、管理者、政治家、研究者、学生などが視察研修に参加されています。

世界中の人口構成が変化しており、高齢者の占める割合が急増しています。そのため高齢者一人一人のニーズと可能性に基盤を置き、最適なケアとサービスを提供している、デンマークの福祉モデルに注目がそそがれています。また同時に環境問題に対する関心も高まっています。公共機関による廃棄物や汚水処理の計画、施策も関心の的となっています。

2018年9月のLOPOプログラムへのご参加を心よりお待ちしております。



Carsten Rasmussen

カーステン・ラスムッセン (ネストヴェズ市 市長)

●事前研修会 (お申込者にはご参加をお願いしています)

* 研修日時：2018年9月8日(土) 13:00～16:00(予定)(実施はこの日のみです)

* 会場：東京、大阪の2ヶ所で実施予定

(その他の都市での参加も可能な場合がございますのでお問合せください)

・東京会場：東京都渋谷区代々木4-30-3 新宿ミッドウエストビル

(福祉フォーラム・ジャパン事務所)

・大阪会場：大阪府大阪市城東区成育2-16-15 (アビリティーズ・ケアネット(株))

* 研修内容：事前に理解すべき事項の確認、参加者同士の交流

デンマークに関する基礎知識、ネストヴェズ市の概要説明
研修内容・旅行に関する説明、質疑応答、他

●報告書の作成

研修終了後、ご参加の皆さまに分担して原稿をお書きいただき、1冊の報告書を作成します。帰国後に原稿作成をお願いいたしますので、あらかじめご了承ください。

参加者の声

○講義、見学、同行訪問などバラエティに富み、全日程を通して充実した研修でした。高齢者施策を含めたケアシステム全般を網羅しており、なかでも、高齢者施設での夕食やヘルパー同行訪問など体験プログラムを通して、高齢者の生活を肌で感じる事ができたことが一番の収穫です。
(特別養護老人ホーム・施設長)

○日本ではどうしてもヘルパーから利用者へ必要以上の援助をしてしまう傾向、利用者からヘルパーへ過度の要望が出てしまう傾向があると思います。短時間のサービス提供を実際に見て、ヘルパーと利用者が適度な距離感を保っているという姿は新鮮な発見でした。
(特別養護老人ホーム・相談員)

○デンマークと日本のそれぞれの良い点、課題点を知る事が出来て、とても充実した時間を過ごす事ができて感謝しています。今後も機会があれば是非、数年後のデンマークの様子を学んでみたいと思いました。
(ケアマネジャー)

○ケアの質が必ずしもスタッフすべてが高いとは言えないようで、これはどの国においても共通の課題であると感じた。ケアの専門家を育成し、資格の地位を向上させていくことは、高齢化率が高くなると予測されている国にとっては急務なことであり、どのように活躍の場を設けていくのか、福祉国家と言われるデンマークから見習う点が多く大変勉強になった。
(介護研修指導職)

○ほとんどの利用者が自己実現や生きがいの為に通っていた。日本では入浴や充実した食事が利用目的だが、それはあまり重要視されおらず、至れり尽くせりといった感じでもない。あくまで利用者自身が主人公であり職員はそのサポート役であるということが感じられた。
(特別養護老人ホーム・施設長)



▲ケアサービスを利用される高齢者宅へ。介護スタッフとともに同行訪問し、24時間のホームケアの実際を見学。



▲夕食後、食器の片付けをする入居者。進んで自分から洗いものをされており、順番や強制ではありません。



▲アクティビティセンターで利用者さんが作成された作品

特定非営利活動法人 福祉フォーラム・ジャパン 事務局

(デンマーク視察研修担当)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 4-30-3 新宿ミッドウエストビル

TEL : 03-5388-7260 FAX : 03-5388-7210

E-mail : ffjinfo@ff-japan.org